栃木県小中一貫教育推進事業取組市の事例

栃木県では、平成28年度から、文部科学省の委託を受け、小中一貫教育推進事業を実施しています。

ここでは、小山市、那須烏山市、大田原市、那須塩原市のこれまでの取組等について紹介します。

それぞれ、取組の意図や内容は様々ですが、今後、小中一貫教育を推進しようとしている地域や学校、また、小中連携を行っている学校において、参考にしてください。

【事例１】小山市
「つなぐ･そろえる･つどう」をキーワードとして推進する小中一貫教育

【事例２】那須烏山市
外国語教育を軸にした小中一貫教育

【事例３】大田原市
モデル地区の実践から全市推進を図る小中一貫教育

【事例４】那須塩原市
各中学校区の自主性をサポートしながら進める小中一貫教育

小山市

１　小山市の概要

小山市は、「水と緑と大地」の豊かな自然環境と古い歴史を有し、東京圏からわずか60㎞の新幹線の停車する鉄道・国道がともに交差する交通の要衝にあり、平成17年には人口が１６万人を突破し、県下第二の都市として発展を続けています。そして、豊かな自然環境と人々の高い技術によって生み出された特産品のブランド化を推進するとともに徳川幕府300年の栄光への道筋をつけた史実「小山評定」にあやかって「開運のまちおやま」を全国に発信しています。

２　小中一貫教育に関する本市のこれまでの取組

本市では、平成19年度から小中連携教育を進め、現在では小中一貫教育へ順次移行し、全中学校区でそれぞれの特色を生かした様々な取組が行われています。

取組の段階として、第１ステージ、第２ステージ（３年間）、第３ステージを設定し、特に第３ステージでは、小・中学校の教育課程に連続性を持たせ、９年間の連続性を大切にして、子どもたちの「学び」や「育ち」が一層確かなものになるよう、教育の充実を目指してきました。こうした取組により、学力、体力そして豊かな心の育成の観点から、国の調査や先進自治体における小中一貫教育の成果と同様に、一定の成果があらわれてきました。

そこで、平成29年度からは、これまでの取組の成果を踏まえ、中学校区の小・中学校の教職員が一体となって、知・徳・体における一貫した指導や支援を行い、義務教育９年間の枠組みの中で、子どもの「学び」や「育ち」の連続性を保証した教育を推進していくこととしました。また、絹中学校区の４校は、義務教育学校として、義務教育９年間の子どもの「学び」や「育ち」をつなぐために、一つの教職員組織で、より円滑な接続のための指導や支援に当たることとしました。

３　小中一貫教育推進事業における取組

(1) 導入の背景

少子高齢化、高度情報化、グローバル化、ＩＣＴ化、核家族化等、今日の社会情勢の急激な変化や価値観の多様化により、子どもたちを取り巻く生活環境は大きく変容しています。

そして、学校現場においても、いじめや不登校、家庭や地域の教育力の低下など、様々な教育課題が生じています。

こうした厳しい時代を生きる子どもたちには、自らの手で自らの人生を切り拓くとともに、多様な価値観を受容し、共生していくことが求められています。子ども自らが、自己肯定感・自己有用感を持ち、自信を持って生きていくことができるよう、子どもの能力や可能性を引きだす教育の実現が急務となっています。

本市では、そうした教育の実現に資するよう、知・徳・体の調和のとれた子どもの育成のために、小・中学校の教職員が一体となって、義務教育９年間の枠組みの中で、一貫した指導や支援を行い、子どもの「学び」や「育ち」の連続性を保証した小中一貫教育を推進していくこととしました。

(2) 本市の小中一貫教育の特徴

本市は、知・徳・体、そして郷土を大切にすることの四つを柱として、基本方針のもと、「学びや育ちを『つなぐ』」「指導を『そろえる』」「みんなが『つどう』」をキーワードとした特色ある小中一貫教育を進めています。また、「共創」の教育活動の展開を通して、全ての中学校区・義務教育学校で小中一貫教育を進めています。学びや育ちをつなぐこと、指導をそろえることとともに、子ども、教職員、さらには地域の方々が集う場としての学校という視点をもって、各中学校区の特色ある小中一貫教育を進めています。

(3) 具体的な取組内容

ア　小山市小中一貫教育推進基本計画の策定に向けた検討委員会の開催

「これまでの取組」、「小中一貫教育のねらいとグランドデザイン」、「基本方針」等について明らかにすることで、今後の研究の指針とします。

イ　推進計画及び指導計画の作成

小山市の小中一貫教育のねらいを踏まえ、各中学校区において、９年間を見通した特色ある教育活動を行うために、それぞれの中学校区の教育活動を整理・統合し、創意工夫ある「小中一貫教育推進計画」及び「小中一貫教育基本カリキュラム」を作成しました。

ウ　「教育フォーラムおやま」の開催

小山市が進める小中一貫教育のほか、コミュニティ・スクールや英語教育の実施について理解を深めました。教育委員会事務局による説明のほか、代表による実践発表や京都光華女子大学の西孝一郎先生による講演が行われました。

市内教職員をはじめ、ＰＴＡ関係者、学校運営協議会役員など約200名の参加がありました。

【講演会の様子】

４　実践校（地域）の取組

(1) 学校の概要

豊田中学校区は、豊田中学校、豊田北小学校、豊田南小学校の３校で小中一貫教育を推進しています。小山市西部の穀倉地帯にあり、それぞれが小規模校ですが、小規模校の特性や地域の環境を生かした創意ある教育活動が行われています。また現在、豊田北小学校・豊田南小学校の統合や豊田中学校に隣接した土地への小学校校舎建設などに向け、検討が進められています。

(2) 特徴的な取組

豊田中学校区では、目指す子ども像を「自分の思いを伝えられる子、お互いに協力できる子、目標をもち最後までやり抜く子」と設定し、表現力の育成や主体的に行動できる子どもの育成を目指しています。

10年前から小中連携の取組が行われており、運動会や文化祭での児童生徒の交流、児童生徒の生活や学習のきまりを定めた『豊田スタンダード』での指導を行っています。

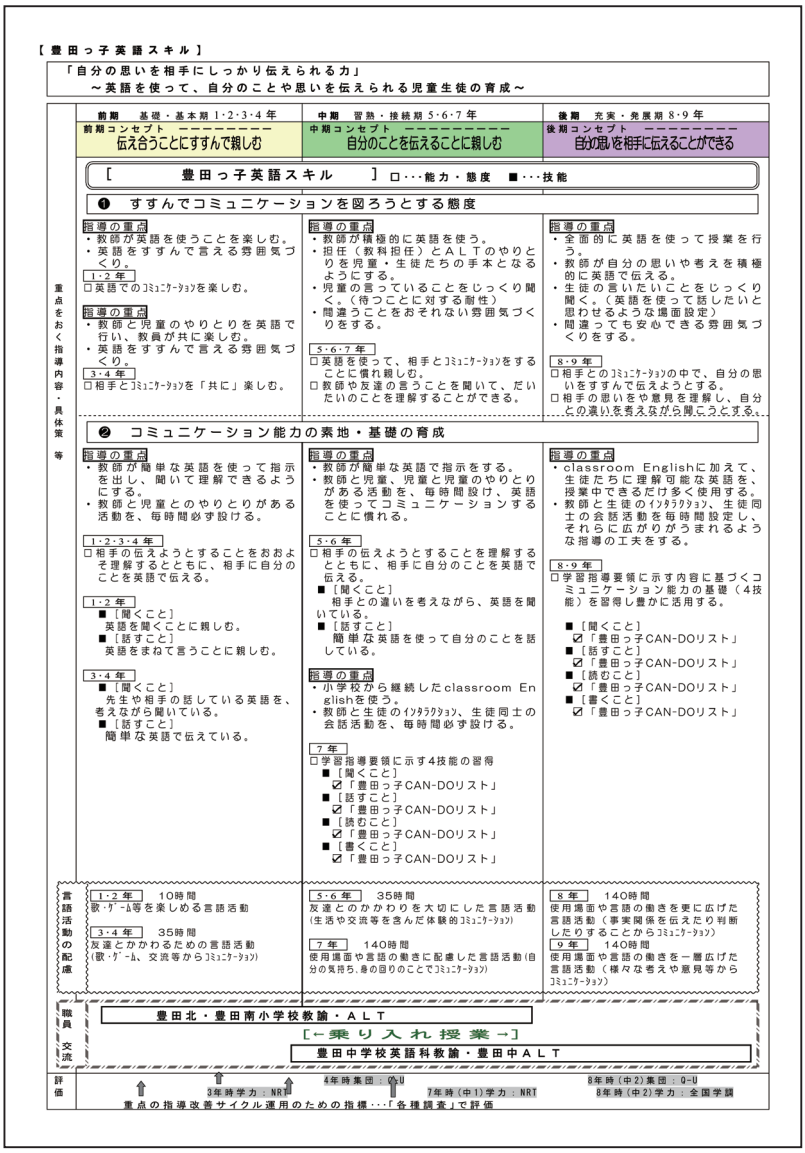
９年間を見通した教育課程の作成や、学習内容のつながりを意識した授業研究会、部会ごとの計画による小・中学校教員２人による授業や乗り入れ授業などを実施しています。

また、重点指導教科を英語に設定し、英語科における９年間のカリキュラムを作成し、指導の充実を図っています。

小中一貫教育の様子を保護者や地域の方にも広めるために、３校合同で広報紙「豊田っ子」を発行し、子どもの学びや育ちをつなぐために、地域・家庭・学校が集い、思いや心をつなぎ、子どもに向かう姿勢をそろえられるようにしています。

【小学校学校祭での中学生和太鼓演奏の様子】

【小学校での英語科乗り入れ授業の様子】



(3) 主な成果と今後の展望

子どもの実態から、「周りに臆することなく発表できたり活動できたりする子どもを育てていきたい」という地域や教職員の願いがあります。小中一貫教育の実践を重ねてきた中で、授業や行事の様々な場面で堂々と、そして積極的に発表する姿が数多く見られるようになり、小学生の中学生へのあこがれの気持ちや、自己肯定感・自己有用感の高まりがみられます。

今後も、児童生徒一人一人が自己肯定感や自己有用感に裏付けされた自信を身に付け、義務教育９年間の学校生活から巣立つことができるよう、創意ある教育活動を展開していきます。

５　成果と課題

これまでの取組の主な成果として、「学習意欲の高まり」、「規範意識の向上」、「自己有用感の高揚」、「教職員の児童生徒理解の向上」、「指導方法改善意欲の向上」、「地域の連帯意識の高まり」などが挙げられます。

今後は、本市の小中一貫教育推進基本計画を基に、今後５年間の見通しを持ってそれぞれの取組を振り返る検証改善サイクルを運用することで、より推進・充実を図ります。